

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 4 回 (仮称) 新・都市農業振興ビジョン検討委員会				
事務局 (担当課)		農政課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 3 (直通)				
開催日時		平成 2 6 年 1 0 月 1 5 日 (水) 午後 2 時 ~ 4 時				
開催場所		相模原市立産業会館 4 階国際商談室				
出席者	委員	9 人 (別紙のとおり)				
	その他	-				
	事務局	1 0 人 (経済部長、農政課長 他 8 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	2 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1) プレゼンテーション 「パルシステムの活動を通じた相模原市の農業の可能性について」 (2) (仮称) 新・都市農業振興ビジョンの重点プロジェクトについて (たたき台) 3 その他 4 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

大木委員長の進行により開会し、傍聴者2名の入室が承認された。

2 議題（ は委員の発言、 は事務局の発言）

大木委員長の進行により議事に入った。

(1) プレゼンテーション

「パルシステムの活動を通じた相模原市の農業の可能性について」

高橋英明委員（パルシステム生活協同組合連合会）が、パルシステムの「産直」の取組について、プレゼンテーションを行った。

主な発表内容について

ア 生協が組織された背景について

- ・高度経済成長期、食に関する事件が多発し、食に対する不安が高まった。
- ・そうした中、自分たちの暮らしをよりよいものにするため、生活者が自発的に生協を組織した。

イ パルシステムの商品づくりについて

- ・パルシステムは産直活動を政策の柱として、立ち上げられた。
- ・産直の四原則として、以下を掲げている。

生産者・産地が明らかであること

生産方法や出荷基準が明らかで生産の履歴がわかること

環境保全型・資源循環型農業を目指していること

生産者と組合員相互の交流ができること

ウ 相模原市の農業の発展のために

- ・農産物をどんな人にどのように食べてもらいたいのかというターゲットやビジョンを明確にしていくことが、農業経営における成功の鍵であると考える。

(2) (仮称)新・都市農業振興ビジョンの重点プロジェクトについて(たたき台)

事務局から(仮称)新・都市農業振興ビジョンの重点プロジェクトのたたき台について、説明を行った。

ア 担い手育成プロジェクトについて

一般企業の参入について、望ましいことであるが、うまくいかず事業が中止となることが懸念される。参入の時点で、ある程度の審査を入れるべきではないか。

現在も、企業の事業計画を審査した上で、農地の所有者に紹介をしている。また、参入に際しては、企業・土地の所有者・本市の三者で、適切な農業経営を行うための協定を結んでいる。

「青年就農給付金」の給付期間を2年程度延長する案について、「2年」とする背景は何か。

「2年」というのは例示であり、給付期間の延長がよいのか、金額の上乗せがよいのか、新規就農者に対するシティセールス効果も含めて議論いただきたい。

近隣自治体で期間の延長や、金額の上乗せをしているところはあるのか。

近隣自治体で実施しているところはない。本市は県内でも新規就農者が多いが、さらなるアドバンテージを確保していきたいと考えている。

イ 農地有効活用プロジェクトについて

土地改良事業について、「大沢南部地区」などで実績があるようだが、新規でどの地区を考えているのか。

津久井地域を念頭に考えている。旧市域においても、地権者の合意があれば、推進していきたい。

有害鳥獣対策について、隣接する東京都や山梨県などとの連携はあるのか。

連携はない。たとえば、ニホンザルについて、神奈川県では「第三次ニホンザル保護管理計画」により、檻での捕獲しかできないが、東京都・山梨県では銃による殺処分をしている。隣接する都県と同様の対応をとれるよう県に働きかけている。

現在、市で行っているサルの監視や追払いについて、どの程度効果があったのか検証していただきたい。

ウ 都市農業活性化プロジェクトについて

「6次産業化施設整備補助制度」について、ターゲットとしている農作物は何か。

市内では、プリンや黒にんにくなどのさまざまな事例がある。特定の農産物を想定しているわけではない。

「マッチング商談会」については商業分野等においては広く行われているが、これまでの経験では成果は限定的と感じている。農業分野でも同様のことが予測されるが。

農業分野では、異業種とのマッチングの機会がほとんど無いのが現状である。まずは小さな規模で機会を設けていきたい。

エ 地産地消・農業との交流プロジェクト

果樹の摘み取りの施設整備に対する補助や「グリーンツアー」について、具体的な構想はあるのか。

いちごやブルーベリーの栽培施設整備について、市が相談を受けている案件があるので、支援していきたいと考えている。また、「グリーンツアー」については、農業体験学習がこども向けであるのに対し、大人向けの魅力的なツアーを考えていきたい。

ビジョン策定に向けての全体的な意見だが、人に住んでもらわないと農業の発展はない。特に津久井地域の人口減少対策と連携する施策を考えてもいいのではないかと。

ビジョンの施策を実現するためには、市だけでなく、農業者、農業関係団体、市民など、各施策における実施主体を明確にして進めていく必要があると思われる。

3 その他

事務局から次回の日程等に関する事務連絡を行った。

・平成26年11月18日(火) 午後2時～4時

4 閉会

第4回(仮称)新・都市農業振興ビジョン検討委員会委員名簿 (50音順・敬称略)				
	所属団体等	氏名	備考	出欠席
1	相模原市認定農業者連絡会 副会長	天野 國彦		出席
2	公募委員	池田 珠三子		出席
3	麻布大学獣医学部 教授	大木 茂	委員長	出席
4	相模原市農業協同組合 理事	小俣 シゲ子	副委員長	出席
5	公募委員	上島 都子		出席
6	一般財団法人農村開発企画委員会 特任研究員	楠本 侑司		出席
7	株式会社藤野倶楽部 代表取締役	桑原 敏勝		欠席
8	津久井郡農業協同組合 専務理事	坂間 陸二		出席
9	パルシステム生活協同組合連合会 産直開発課長	高橋 英明		出席
10	相模原市農業委員会 副会長	高橋 三行		欠席
11	相模原市農業協同組合 常務理事	長谷川 辰夫		出席